

## 道徳科学習指導案

令和4年2月8日

授業者 2年E組 世田谷区立東深沢中学校

教諭 曾根 岬大

2年F組 世田谷区立上祖師谷中学校

主任教諭 植木 幹明

- 1 主題名 「公平な社会とは」
- 2 内容項目 C 公正・公平
- 3 教材名・出典 「公正について考えよう」(「私の宝物」原市紘奈さんの作文、水泳のルール)  
(「I'm POSSIBLE」パラリンピック委員会)

## 4 ねらい

パラリンピックを象徴する価値(勇気、強い意志、公平、インスピレーション)のうち、特に「公平」の概念、または条件について学び、障害がある人もない人も一緒にスポーツを楽しむことができるような工夫について考えることで、多様性を尊重する社会における公正さ・公平さを尊重する意欲と態度をはぐくむ。

## 5 指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 2020 東京大会の記事についてタブレットPCで検索させる。(★)</p> <p>2 水泳のスタートのルールを確認する。(★)</p>	<p>○2020 東京大会を思い出してみよう。</p> <p>○水泳競技の背泳ぎのスタートのルールを知っていますか？</p>	<p>・2020 東京大会の記事を検索させ、ロイロノートの提出箱に提出し共有する。(T2)</p> <p>・オリンピック(世界基準)での水泳のスタートのルールを確認する。(T2)</p>
展開	<p>3 パラリンピックの水泳競技のスタートのルールを確認する。(★)</p> <p>4 障害の違いによってルールが異なる理由を考える。(★)</p> <p>5 資料「私の宝物」を読んで、原市さんがなぜドッチボールを楽しめたのかを考える。(★)</p>	<p>○オリンピックとパラリンピックの水泳のスタートのルールは、何がちがうのでしょうか？</p> <p>○人によってスタートのルールが異なるのはなぜだと思いますか？</p> <p>・人によって不自由な場所が違うから、その人に合ったルールにすべき。</p> <p>・それで公平と言えるのか。</p> <p>○原市さんはなぜドッチボールを楽しむことができたのでしょうか？</p> <p>・みんなと同じルールでできたから。</p> <p>・みんなの思いを感じたから。</p> <p>・自分の存在を認めてもらった気がしたから。</p>	<p>・通常のスタートができない人はどのようにスタートをするのか考えさせる。(T2)</p> <p>・スライドをモニターに提示する。(T2)</p> <p>・ロイロノートを使い、意見を共有しながら近くの人と話し合いをさせる。(T2)</p> <p>・「私の宝物」を範読する。(T1)</p> <p>・ロイロノートを使い、意見を共有しながら近くの人と話し合いをさせる。(T1)</p> <p>クラスメイトが考えたルールは原市さんのことを思っていることであることに留意する。</p>

	学習活動	授業者の発問や指導内容と 予想される生徒の反応	指導上の留意点
	6 公正・公平について班、 学級全体で考える。(★)	◎公正・公平な学級になるように、これ からあなたが心がけたいことはどんなこ とですか？ ・他者を尊重し、支え合う。 ・人によってよりよいやり方に変える。 ・誰でも自分の全力をだせる工夫をみん なで考える。 ・不利な条件に配慮するか、しないかは 話し合っ決めて決めるようにする。 ・相手のやりたいことを考える。	・学級には多様な考えや価値 観をもつ人や障害がある人な どが在籍していることを前提 に、公平・公正について考えさ せる。(T2) ・発問1、2の流れを受け、班 で話し合いをしながら、ロイ ロノートで各自の考えを共有 する。(T2)
終 末	7 授業を振り返り、考えた ことを整理する。	○教師の説話を聞いた後、授業の振り返 りをワークシートに記入する。 ・感想の中に自分ができることをあらた めて記入する。	・身近な社会である教室か ら、学年、学校と公正・公平の 意識が広がるのが公正・公 平の社会の実現につながるこ とに気付かせる。(T2)

## 6 評価

- ・競技のルールなどの公正さや公平さについて、多面的・多角的に考えることができたか。
- ・公正・公平な社会や集団について、自分事として考えることができたか。

## ■主題設定の理由

本教材は、国際パラリンピック委員会の公認教材である。パラリンピックを象徴する価値の「公平」について考えさせることができる。本教材を通じて、多様性を尊重する社会での公平・公正とはどうあるべきなのか、生徒にとって身近な社会である教室を想定して考えさせる。それを教室から徐々に広げていくことが、だれに対しても公平に接することのできる社会の実現につながる。そのために自分が心がけたいことを発表し合い、全体で話し合うことで、公平・公正な社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

## ■指導の工夫

- ・ロイロノートを活用することで、多くの人の意見を取り入れ自分の考えを深めることができる。また意見の共有を手早く行うことができ、話し合いの時間を多く設けることができる。
- ・ロイロノートの意見の共有の際、名前を非表示にすることで、普段自分を出すことが苦手な生徒も積極的に発言することができる。

## ■板書計画

「本当に公平・公正な社会」とは

人によってスタートのルールが異なるのはなぜか

- ・人によって不自由な場所が違う
- ・公平ではない

写真

原市さんはなぜドッジボールを楽しめたのか

- ・同じルールでできたため
- ・自分の存在を認めてもらった

あなたが心がけたいことは

- ・他者を尊重し、支えあう
- ・自分の全力を出せる工夫をみんなで考える
- ・相手のやりたいことを考える